

高知県における知的障害特別支援学校卒業生の一般就労先の職務分析

千明亜由美¹⁾ 是永かな子²⁾ 松田弥花²⁾ 山崎敏秀³⁾ 平地正幸⁴⁾

小原浄二¹⁾ 杉元美栄^{1) 2)} 濱村毅¹⁾ 宇川浩之^{1) 2)} 栗田勇氣¹⁾

1) 高知大学教育学部附属特別支援学校

2) 高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門

3) 高知大学教育学部

4) 高知県教育委員会事務局特別支援教育課

Job Analysis of Competitive Employment of Graduates of Special Needs Schools for Intellectual Disabilities in Kochi Prefecture

CHIGIRA Ayumi¹⁾ KORENAGA Kanako²⁾ MATSUDA Yaka²⁾ YAMASAKI Toshihide^{1,3)} HIRACHI Masayuki⁴⁾

OBARA Jyoji¹⁾ SUGIMOTO Mie^{1) 2)} HAMAMURA Takeshi¹⁾ UGAWA Hiroyuki^{1) 2)} KURITA Yuki¹⁾

1) Special School Affiliated with Faculty of Education, Kochi University

2) Professional School for Teacher Education, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University

3) Faculty of Education, Kochi University

4) Kochi Prefectural Board of Education Special Needs Education Division

要 約

本研究では、現代の高知県における知的障害特別支援学校を卒業した生徒の一般就労先の就労実態を調査した。調査では、各企業種における職務遂行に求められる動作(主な職務)を分析して、その傾向を明らかにし、現代の高知県における知的障害特別支援学校卒業生の一般就労先の職務から見えてきた具体的な動作を明らかにした。その動作をもとに、学校教育段階で就労に向けた指導や支援を考えるための指針を示した。今後、さらに細かい分析を進めることで、各校の進路指導担当者における職場開拓及び支援資料としての活用が期待できると考察した。

キーワード：知的障害 一般就労傾向 高知県 職務分析

1. 問題と目的

高知大学教育学部附属特別支援学校では、1970年の開校以来、児童生徒の社会的自立を教育目標におき、それを達成させるために「一般日常生活の自立」と「職業的自立」を柱としてきた。その基盤となったものが『高知プラン』である。『高知プラン』とは、昭和34年から昭和36年に刊行された高知県教育委員会を中心に作成さ

れた「高知県の知的障害児教育確立期の障害児教育の指針」である。内容は「教育計画を論理的、体系的に考え、さらに補完する根拠を、知的障害者の適正職業群の要求する身体的、精神的特性に求め、ミニマムエッセンシャルズとして要素を抽出し、教育計画に織り込むことを意図したもの」である。具体的には、知的障害教育実践の具体的な指針となった「能力要素一覧表」である。

現代に継承すべき『高知プラン』の課題について、是永(2005)は、「高知プランは、当時の状況下での『就職』という目標を明確に設定し、そのための教育における目標を段階的に細分化して設定していた。このことを念頭におくならば、今日的課題は、何が現代社会における知的障害児の『適職』であるかを再検討して、『教育要素表』を再考すること」と述べている。

そこで、本研究では、上記の『教育要素表』を再考することに着目し、その前段階として、近年の高知県における知的障害のある生徒の一般就労先の傾向を調査することとした。同時に、その一般就労先の職務遂行に求められる各動作が具体的にはどのようなものであるのかについて調査を行うことで、学校教育段階で指導すべき具体的な動作を明らかにし、その動作の獲得を目指すための具体的な教育内容とその指導方法について提案することを目的とした。

2. 研究方法

第一に、分校を含む高知県国公立知的障害特別支援学校(全7校)を卒業し、一般就労をしている過去3年間の卒業生(99名)を対象として、「①行っている主な就労先の産業別分類(産業種・企業種)②行っている主な職務に関する概要(職場の環境・1日の主な職務・職務に求められる動作)③就労までの支援」について実態調査を実施する。回答者は、各校の進路指導主事もしくは、卒業時の学級担任に依頼する。実施期間は、令和2年7月～8月末日までとする。

第二に、回答の分析を行う。期間は、令和2年9月～10月までとする。

第三に、各企業種における職務遂行に求められる動作(主な職務)の傾向を明らかにするために、分析項目については、高知プラン(1959)で使用されていた作業者の所要特質一覧の職務分析に使用した要素を参考にして、

調査項目②の「職務に求められる動作」の全回答の傾向から、大きく4つの動作に分けられると判断し、表1の4つの動作の観点と要素で分類してまとめることとした。

3. 研究の結果

3.1. アンケートの回答

調査対象校全7校の全校から回答を得た。回答率は、100%であった。

3.2 高知県における知的障害特別支援学校生の現代の一般就労先の傾向

3.2.1 就労先の産業別分類(産業種・企業種)

表2は、「高知県知的障害特別支援学校卒業生3年間の一般就労先産業別分類と職務に求められる動作分類抜粋」であり、表3は「3年間における一般就労先産業別分類の内訳」ある。建設業や製造業、運輸業に就労しているのは25名、その他は、卸売業・小売業やサービス業など、他者と関わる機会が多く、職務の内容も臨機応変さが求められるなど、多岐に亘る仕事が多い業種に従事している傾向にある。平成29年度から令和元年度までの分校を含む国公立知的障害特別支援学校の卒業生は335名である(高知県教育委員会平成30年度～令和2年度高知県の特別支援教育資料)。そのうち一般就労をした卒業生は99名であり、就労率は、29.5%であった。

「就労先の特徴」としては、卸売業・小売業が29名(29.2%)、製造業が19名(19.1%)、医療・福祉が17名(17.1%)、宿泊業・飲食サービス業が11名(11.1%)の割合を占めていることから、これらが現代の高知県の知的障害教育特別支援学校を卒業した一般就労先の特徴といえる。

表1. 職務遂行に求められる主な動作(主な職務)の分析項目と分類基準とした観点とそれに関する主要素

観 点	体の動きに 求められる動作	人との関わりに 求められる動作	状況に配慮した動作	知的判断が求められる動作
要 素	物を持って運ぶ等の単純な移動、ほぼ決まった単純な作業の繰り返し、組み立てや製造工程・製造ラインの決まった動作など、主に技能面、器用さ、指先の操作や動き、身体の使い方、目測、共応・協応動作、形の知覚、体力が求められる動作が主となる職務。	状況に応じた言葉遣い、表現力、状況から判断した応対、その場の状況に応じた受け答え等、人との関わりが主となる職務。	状況に応じた対応・配慮・気配り、状況から判断した動き、状況に応じた対応・配慮など、職務が変動的で、状況に応じてその場で対応することを求められる動作が主となっている職務。	職務の一つ一つは比較的単純な仕事でも、一人で複数の職務を行うことが求められていて状況を判断して行う職務や思考力を求められるもの、指示を聞きその内容を理解して、その日の仕事の段取りや準備、片付けまでの流れを一人で判断して行っているものなど、認知や記憶、思考、判断等の知的面が必要とされる職務。専門的な知識や技能が求められる職務や、パソコンや機械操作が求められる職務。

表 2. 高知県国公立知的障害特別支援学校卒業生 3 年間の一般就労先産業別分類と職務遂行に求められる動作分類抜粋

平成29年度から令和元年度高知県知的障害特別支援学校卒業生の一般就労先産業別分類及び職務に関する動作別分類一覧表										
産業別分類は、総務省統計局の日本標準産業分類（平成25年10月改訂版）大分類により分類している。分類記号は、集計の都合上番号としている。										
(1：農業、林業 2：漁業 3：鉱業、採石業、砂利採取業 4：建設業 5：製造業 6：電気・ガス・熱供給・水道 7：情報通信業 8：運輸業、郵便業 9：卸売業、小売業 10：金融業、保険業 11：不動産業、物品賃貸業 12：学術研究、専門・技術サービス業 13：宿泊業、飲食サービス業 14：生活関連サービス業、娯楽業 15：教育、学習支援業 16：医療、福祉 17：複合サービス事業 18：サービス業 19：公務)										
産業別分類		職務に関する概要			職務遂行に求められる中心となる動作（主な職務）				就労までの支援	
番号	就労先の産業種 （産業別区分）	企業種	職場の環境	1日の主な職務	職務に求められる内容	体の動きに求められる動作	人との関わりに求められる動作	状況に配慮した動作	知能的判断が求められる動作	特徴ある支援
9	卸売業、小売業 （販売の職業）	ホームセン ター	一人で仕事	・品出し ・品出し	【主たる職務：品出し】 ・お客さんに「いらっしゃいませ」と言う。 ・商品の日付を確認して陳列する。 ・品出しは、確認しながら行う。 ・棚に並べたときにお客さんが見やすいよう、綺麗にそろえる。 ・商品があるべきところではないところがあれば、元の場所に戻す。 ・お客さんに質問されたら答え、分からないときには従業員につなぐ。 ・ロープやクロスなどの切り売りに対応する。 ・説明書を読んで、見本の組み立て作業を行う。 ・植物の水やり。	・植物の水やり。	・お客さんに「いらっしゃいませ」と言う。 ・お客さんに質問されたら答える。分からないときには従業員につなぐ。 ・ロープやクロスなどの切り売りに対応する。	・商品の日付を確認して陳列する。 ・品出しは、補充商品を陳列している棚を探して、商品の陳列場所を商品番号や商品名等から確認して適切な場所に補充する。 ・棚に並べたときにお客さんが見やすいよう、綺麗にそろえる。 ・商品があるべきところではないところがあれば、元の場所に戻す。 ・ロープやクロスなどの切り売りに対応する。 ・説明書を読んで、見本の組み立て作業を行う。	・困った順に言うが示す。 ・アフターケアとして訪問し、職員との情報共有を図る。 ・障害者就業・生活支援センターと連携する。	
9	卸売業、小売業 （販売の職業）	スーパー	一人での作業	青果部門でのバックヤード袋詰めと店舗への品出し	・野菜等を決められた量にカット、袋詰めをする。 ・シール（バーコード）が必要なものには、機械入力し、できたものを貼る。 ・「いらっしゃいませ」と言って店舗に入る。 ・お客様に気を配りながら、商品を出す場所へ移動する。 ・商品を古いものを前に、新しいものを奥に陳列する。 ・お客様が近くに来たら「いらっしゃいませ」と挨拶する。 ・お客様から質問があれば、自分が分かることは答え、分からない場合は他の従業員に引き継ぐ。 ・陳列が終われば、バックヤードに戻る。		・「いらっしゃいませ」と言って店舗に入る。	・野菜等を決められた量にカット、袋詰めをする。 ・シール（バーコード）が必要なものには、機械入力し、できたものを貼る。 ・商品化できたものを売り場に陳列する。 ・お客様に気を配りながら、商品を出す場所へ移動する。 ・商品を古いものを前に、新しいものを奥に陳列する。 ・お客様から質問があれば、自分が分かることは答え、分からない場合は他の従業員に引き継ぐ。 ・陳列が終われば、バックヤードに戻る。 （以上を一連の流れで行う）	・担当者を決め、分からないことは聞けるようにする。	
					・導線を考えながら、台車を移動する。 ・商品の種類が分かり、その場所まで移動する		・お客様が近くに来たら「いらっしゃいませ」と挨拶する。	・導線を考えながら、台車を移動する。 ・商品の種類が分かり、その場所まで移動する	・担当者を決め、分からないことは聞けるようにする。	

表 3. 3 年間における一般就労先産業別分類の内訳

産業別区分	企業種	人数
建設業	クレーンリース業	1
	資材運搬等	1
製造業	貴金属・医療機器製造	1
	木工・ステンレス製品製造（作業補助員）	1
	鉄鋼業（機械加工）	1
	食料品製造業（製造部員）	1
	鉄鋼業（正社員：製造）	1
	食料品製造業（並ね平等袋詰め作業員）	1
	造船部品の製造加工	1
	電子部品・基板加工製造など	1
	乳製品等製造	3
	木製製品製造業	1
	運別作業員	2
	食品加工	1
	製造ビニール製加工	2
	ティッシュペーパー	1
	ラインでの製造	1
運輸業・郵便業	総合物流企業（倉庫作業員）	1
	運輸	3
卸売業・小売業	ドラッグストア	5
	スーパーマーケット（※ネットスーパーも含む）	18
	食品（卸センター）	1
	ホームセンター	2
	衣料	1
	自動車販売店	1
	米卸販売	1
不動産業・物品賃貸業	レンタルビデオ	1
宿泊業・飲食サービス業	ホテル（調理補助）	3
	病院内食堂	1
	ホテル清掃レストラン業務	1
	旅館	1
	複合型産直市場	1
	水仕	1
	飲食店	1
	風堂	1
生活関連サービス業	クリーニング業	3
	ゴルフ場	1
教育、学習支援業	学校（用務補助）	1
	特別支援学校	3
医療、福祉	居宅介護支援事業所	4
	障害者支援施設	1
	老人施設	1
	通所介護事業所	1
	病院施設（調理補助）	1
	病院施設（看護補助）	1
	病院施設（総務課）	1
	病院施設（清掃員）	1
	高齢者介護複合施設	2
	幼稚園（保育補助）	1
	清掃	1
	デイサービス（介護職員）	1
	介護老人保健施設	1
複合サービス事業	生活協同組合	1
サービス業	ビルメンテナンスホテル清掃業	2
	ビルメンテナンス及び病院サポート業務	1
サービス業（清掃業）	病院清掃	1
公務（会計年度任用職員）	市町村役場	1
公務	県庁	1
公務（国家公務員）	防衛省（陸上自衛隊）	1

また、1 名ずつではあるが、自衛官や幼稚園（保育補助）、病院施設（看護補助）の仕事に就いている卒業生がいることから、知的障害のある生徒の就労先の可能性が広がる事例ではないかと推察できる。特別支援学校高等部学習指導要領に「福祉」が 2009 年に新設されて 12 年が経つが、高知県においては、「福祉」に関する作業学習を取り入れている学校はまだみられてない。しかしながら、福祉に関わる就労先も多いことから教育課程上特設していなくても、清掃・接客・介護・ベトナムメイクなど、他の教科等でそのような職務に求められる動作が培われているのではないかと考えられる。

3. 2. 2. 主な職務に関する概要（職場の環境・1 日の主な職務）

職場の環境としては、「（何らかの形で）一人で作業を行う」との回答は、62 名であり、62.6%の割合で一人で作業を行っていることが分かった。

表 4 に、例として、「ホームセンター」での職務と動作の分類を挙げる。これだけの職務の中に、お客様の立場に立つて、「見えやすいように綺麗に商品をそろえること」、「（元気よく明るい声でかつ笑顔で）いらっしゃいませ」と言うこと、お客様の質問に答えること、分からないときには従業員につなぐことなど、相手の立場になって対応を求められる内容が多くみられている、また、要望に

応える切り売りや説明書を読んで組み立てることも求められている。

表 4. 職務遂行に求められる動作(主な職務)の 1 例(ホームセンター)

職務に求められる内容	体の動きに求められる動作	人との関わりに求められる動作	状況に配慮した動作	知的判断が求められる動作
【主たる職務：品出し】 ・お客さんに「いらっしゃいませ」と言う。 ・商品の日付を確認して陳列する。 ・品出しは、確認しながら行う。 ・棚に並べた時にお客さんが見えやすいよう、綺麗にそろえる。 ・商品があるべき所ではない所であれば、元の場所に戻す。 ・お客さんに質問されたら答え、分からない時には従業員につなぐ。 ・ロープやクロスなどの切り売りに対応する。	・植物の水やりをする。	・お客さんに「いらっしゃいませ」と言う。 ・お客さんに質問されたら答える。分からない時には従業員につなぐ。	・棚に並べた時にお客さんが見えやすいよう、綺麗にそろえる。 ・商品があるべき所ではない所であれば、元の場所に戻す。	・商品の日付を確認して陳列する。 ・品出しは、補充商品を陳列している棚を探して、商品の陳列場所を商品番号や商品名等から確認して適切な場所に補充をする。 ・ロープやクロスなどの切り売りに対応する。 ・説明書を読んで、見本の組み立て作業を行う。

表 5. 4 つの観点と職務を行う動きを表す動詞でまとめた分類表

体の動きに求められる動作	資材を運び、資材を所定の位置に置く、(ボールペンほどの)細い道具を詰める、箱にラベルを貼る、大きな箱に詰める、検品に回す、木を切る、木を磨く、角を削る、 ゴミを集める3 、小さな金属のバリを取る、レンズを見ながらバリを取る、(のりを)束ねる、ケースに入れる、容器に乾燥剤を入れる、緩衝材を巻く、やすりでバリを取る、薬品に漬ける、ニラを束ねる、テープで巻く、袋に入れる、ドライバーなどで部品を組み立てる、(ピン)の蓋を取り除く2、コンテナに並べる2、コンテナを積み3、ピンの選別をして仕分ける、コンテナを洗浄する3、木の緩衝材を袋に入れる、まんべんなく広げる、紐で縛る、ミョウガをやさしくつまむ、機械から流れてくるトレーに載せる、集中力を持続させる2、ポケットティッシュを袋に詰める、緻密で精巧な動きをする、棚から品物を出す、品物を箱に入れる、カートで商品を選ぶ、ラックを折りたたむ、積み重ねる、コンテナを組み立てる、品出しや整理をする、植物の水やりをする、 店舗内外の清掃をする 、商品にシールを貼る、皮をむく2、指定された形に野菜を切る2、食器を洗う2、病棟へ配膳車を運ぶ・下げる2、残飯を捨てる2、食洗器にかける2、食器を拭く3、食器を片付ける3、ホテルのフロント作業の手伝いをする(印を押す、パンフレットの準備をする)、食器の粗洗いをする、汚れが強い所をこする、衣料をたたむ、しわを伸ばす、 トイレの清掃をする 、印刷物の丁合をする2、端をそろえて折る2、ホッチキスで止める2、決められた区域の消毒をする、 決められた区域の清掃をする、清掃をする(食堂、廊下、居室) 、利用者の衣類の洗濯をする2、 清掃やゴミ出しをする、居室を順番に清掃する 、シーツを交換する2、 施設内を清掃する 、衣類を回収する、 掃除場所まで道具をカートで運搬する2、掃除機やモップで掃除をする 、元の場所に片付ける3、 自在ぼうきやダスタークロスなどで清掃をする 、芝生の水まきをする、湯茶の準備を片付けをする、機械へ入れる、コンテナをふき取り、折りたたむ、 清掃の道具を準備する、ほうきやモップを使って掃除をする 、木の処分をする、 室内の清掃をする 、シュレッダーにかける、体力をつける
人との関わりに求められる動作	電話で応対する、 複数で声をかけをしながら物を運び、相手に合わせた動きをする、報告する13、連絡や相談をする8、指示を仰ぐ、指示を受ける3、商品の出来具合の確認をとる、取り扱う材料について確認する、不具合があれば相談する、二人組で場所を確認する、3人1組での協働した動きをする 、希望の勤務日を伝える、 二人一組で緊密な連絡・打ち合わせをする3、お客様に「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」などの挨拶をする13、問い合わせに対応する5、リーダーの指示を聞きながら作業を遂行する2 、ロープやクロスなどの切り売りに対応する、「いらっしゃいませ」と言って店舗に出る、返却商品の応対をする、説明を受ける2、利用者の個室に入る時には声をかける、指導者と一緒にやり方を教わりながら作業をする、確認を求める、入室時は「失礼します」とあいさつをする、清掃が終わると挨拶をして退室する、通常業務が終了した際、他の業務の指示を仰ぐ、笑顔での応対や返事ができる、 チームリーダーに確認を求める2 、不具合の報告ができる
状況に配慮した動作	電話の内容により、対応する、安全に配慮した服装をする2、(資材を)担ぐ時には同僚にあたらないように配慮する、手や足を詰めないように資材を置く、落下物に気をつける、汚れた所を見つける、仕上がり具合で道具を使い分ける、ラインの速さに合わせて行う4、頭上に注意しながら安全に気付けて移動する、常に水分補給に気を付ける3、夏場はまめに着替える、勤務時間の変化に柔軟に対応できる2、確認をしながら組み立てる、終われば報告し、次の指示を受ける、いっぱいになったら交換する4、熱湯に注意しながら攪拌する、袋が裂けないように入れる、野菜を傷つけないように蓋をする、衛生管理に気を付ける、 仕事の状況から判断して整理や清掃を行う2 、汚れを取ったり、コーティング剤を塗ったり拭き取ったりができる、袋の破れをチェックできる、空気を抜き、形を整える、 お客様が来たら「いらっしゃいませ」とあいさつができる5、お客様から質問があれば自分から答える5、分かんなければ他の人に引き継ぐ5、お客様が来た時にはすぐに台車を移動する4 、棚に入りきらない場合には棚の上に置く2、作業が終われば元の場所に戻る2、きれいに洗うことができたかどうかを判断する、 患者に配慮した動きをする2 、食洗器が動いている間に食器の量を判断して洗う、汚れが強い部分を洗う、なるべく多く置けるように考えて置く、 邪魔にならないように避ける2、残りの量を判断して補充する 、音を立てないように清掃をする、 患者や医療従事者、利用者の動きに配慮する2、動線を考えて移動する 、人がいる時には清掃を行ってよいか確認する2、利用者をトイレに誘導する、歯磨きの手伝いができる、 使用済みの道具の消毒ができる、コードやモップさばきに気を付ける3、リストの品物を選ぶ、配達ナンバーを読み取る、商品を補充する14、見栄え良く陳列する20
知的判断が求められる動作	伝票を仕分ける、 パソコンで入力する2、その日の仕事内容を理解する6 、ラベルを貼る位置を決める、100箱数える、選別をする、外観検査をする、 一人で判断して仕事を進める 、道具の知識と安全な操作方法を理解する4、 仕上りの確認・判断をする5、取り残しの確認をする6 、個数を数える3、重さを測る、配布物の準備をする、デジタルカメラで撮影する、 適宜整理をする3 、タイムスケジュールに則った作業をする、 清掃する場所の順番を組み立てる 、機械を操作する2、角度の調整をする、指示を理解して行動に移す3、安全地帯を判断する、周囲に気を付ける、機械の研修や試験を受ける、数や置き場所を随時確認する、容器の状態を確認する3、仕分けができる6、材料を準備する、機械に一定量を入れる、デジタル秤で計量する、 10や100の束にする 、効率の良い清掃をする、レクリエーションの介護支援をする、箱の形状で詰め方を判断する、数えながら野菜を検品する、段ボールにきれいに詰める、必要な道具を考えて準備する2、機械に品物をセットする2、緻密に精巧に作業をする3、リストの品物や数の確認をする2、注文用紙の内容を確認しながら商品を入れる、保冷剤の使用の有無を判断する、〇g～〇gの計量ができる3、目測で大体の量に分かる、品物の傷みを判断する、決められた向きでパレットに積み、日付を確認する11、切り売りに対応する、説明書を読む、決められた場所へ返却する4、決められた量にカットする5、 機械に入力する5、伝票を照合する5 、商品の種類が分かる7、バーコードの位置の判断ができる7、朝食会場の準備ができる、注文に応じた盛り付けができる、簡単な調理ができる、大きさと長さを調節できる、(洗濯時)ネットに入れるかどうかを判断する、洗いを確認する2、洗濯機を操作する、クリーニングの配達ができる、宅配弁当の回収をする、日課表を確認できる2、車いす操作ができる、室名と名前を確認できる、場所に応じた清掃ができる、所定の位置を確認できる、校内・校舎内の修繕ができる、事務補助ができる、本の朗読ができる、利用者の安全確認ができる2、洗浄の手順を守る、健康管理ができる、衛生面でのルールを守る、作業をする場所を確認する3、たった時の一定量の判断ができる2、用途別に分ける2、汚れを判断できる、食器がごになるべく多く入れることができる、その日のメンバーを確認できる、自衛隊の任務遂行能力を身に付ける、自衛隊の組織に関する知識・技能を身に付ける

表5は、全回答の動作を「2. 研究方法 第三」で示した4つの観点と要素でまとめた分類表である。「状況に配慮」する力として、利用者の動きや患者や医療従事者の動きに配慮して作業をしなければならない仕事もあり、より高度な対応が求められているといえる。

3.2.3 就労までの支援

表6は、就労までの支援を集計したものである。最も多かったのは、「支援者を固定」の(26)であった。知的障害のある卒業生にとっては、前ページの表5のように「指示を受ける、確認をする等」が(16)もあることから、支援者を固定することで、困ったときには誰に相談すればいいのか、誰に聞けばいいのか固定化するため、卒業生も分かりやすく職務遂行が確実にできることに繋がっていることが推察できる。

表6. 就労までの支援

就労までの支援	数
支援者を固定	26
必ず担当者が確認	9
障害者就業・生活センターと連携	10
アフターケア	12
メモを活用	5
手順書	5
スケジュール・手順書	4
事前にルールを確認	2
例示確認	7
漢字にルビ	3
タイムスケジュールの提示	6
順序を決める	1
簡潔な指示	4
ペア（母校が一緒の卒業生）で取り組む	2
メールで様子確認	2
週の日課表	1
休憩や気持ちの切り替えなどの声かけ	4
体調管理・食事面・安全面への配慮や指導	8
ソーシャルスキル（社会常識や配慮の言動など）	5
大きな文字で書くように指導	1
視覚化	1
業務日誌などでの振り返りを活用	3
聞き取りや声かけ（相手の顔を見るように促すなど）	5
安心感を与える（途中変更の説明など）	2
一度考える習慣の定着	1
指示内容の確認	2
スマートフォンの活用	1
ジョブコーチ	1
事前に練習	2
支援なし	30

※支援なし（30人）以外は、複数回答あり

また、支援がなく就労している生徒は30人（30.3%）で、残りの69.7%の生徒が職場や教員、関係機関から何らかの複数の支援を受けていることが分かった。

4. 考察とまとめ

表5の4つの観点での動作の特徴から、高知県の知的障害特別支援学校卒業生の一般就労の傾向が見えてきた。この中から、学校教育段階で就労に向けた指導や支援を考えるための観点別考察を以下に示す。

身体の動きに関わる動作の特徴としては、全般的に、椅子に座ったままの作業ではなく、立位で動く作業が多い傾向にある。特に最も多かったのは「清掃する（清掃関連全般）(17)」であることから、高知県教育委員会主催の技能検定でも取り上げられている掃除機やダスタークロス、モップ、箒等を使った掃除や机ふきなど、物をしっかり移動して隅々まで掃く、拭き残しがみられないなど、細部にまで気を付けて清掃を行うなど、これからは日常生活指導等で、より就労につながることを意識した実践的な取組が必須であると思われる。

人との関わりに関する動作の特徴としては、『「いらっしゃいませ」などと挨拶をする(13)』、『「問い合わせに対応する(5)」など、サービス業に求められる動作が多くみられたことが特徴的である。こうした対応の多くは、技能検定で行っている接客サービスでの内容とつながる面が多くあり、接客サービスで培った動作が、そのままサービス業や他の職場での来客対応、電話対応につながることが示された。サービス業においては、お客様が来店した際、すぐに「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」などの挨拶ができることは、最も基本的なことであるため、作業をしながらも常に周りの動きに注意を向ける意識を高めておくことが必要である。

また、「連絡や相談する(8)」、「指示を仰ぐ等(7)」、「確認する等(6)」、「報告する等(14)」などから、作業の確認を求めることや、相手の指示をよく聞いて、決められた手順を守り作業を遂行し、報告することなども多く挙げられていた。また、困った時に質問の報告ができるかどうかやアドバイスをもらった時の態度が適切であるかどうか、作業指示を遮らず、最後まで聞いているかどうかなども、想定できる課題であると思われる。その他、「複数で声かけをしながら物を運ぶ・相手に合わせた動きをする」などの回答から、ペアもしくは3人組での作業の際、相手の動きに合わせて自分の作業を遂行できることが求められているため、学校生活全般において、例えば、生活単元学習や作業学習、自立活動の時間や、宿泊学習などでのシーツたたみや運動会でのテントたたみ

など、相手と協力して片付けるなどの経験を多く積むようにしておくとういである。

状況に配慮した動作の特徴としては、一場面のみで見ただけでは、配慮した動作も多く見られるものの、一連の流れの中で見た場合には一人でやっている職務が多いことから複数回答は少なくなっている。その理由としては、状況に配慮した動作には知的判断面が要求される動作が多くあり、状況に配慮した動作のみの職務が非常に少なく、特に知的判断を必要とする複数の動作を求められていることが見えてきたからである。具体的には、「患者や医療従事者、利用者の動きに配慮する(2)」や「動線を考えて移動する」などにみられるように、自分の作業を遂行しながら、他者の動きを把握し、対応する力が求められている。そのためには、お客様の邪魔になっていないか、自分の作業が優先になっていないかという気遣いのできる力や判断力が必要であろう。また、「使用済みの道具の消毒」を行っている卒業生もいたため、在学中に調理学習の時や生活単元学習、作業学習などで、洗浄することや消毒することなどの活動も就労につながることが想定できる。その他「商品を補充する(14)」や、「見栄え良く陳列する(20)」作業もあるため、販売学習時における商品の補充や日常生活での石鹸やトイレットペーパーの補充など、「あとどれくらいでなくなりそうだから〇〇だけ補充しよう」と先取りして行動することなど、状況判断力を高めていく必要がある。また、想定される場面として、例えば、他の人と同じタイミングで部屋に入る時には、先を譲ることや、他の人が作業をしている時にその先に移動しなければならない時には、声をかけて移動したり、避けられる時には避けて移動したりすること、店内でお客様が来たら動線を変える(又は脇に寄る)などができることが、他者への配慮した動作や心配り、気遣いなどといえるであろう。このような抽象的な指導に関する内容の指導は、具体的な行動単位で親切心や気遣いなどを伝えることで指導効果が得られた事例がある(谷ら、2020)。他には、例えば、木工作業での「やすり」での磨き作業、販売学習で商品を並べる時に「まんべんなく物を置く」こと、商品のラッピングの見本を見て「こんな感じで作る」など、見本を見て、自分で考え、工夫する力を高めていくことが必要であると考えられる。

一方では、そうした動作を求められているときには、障害特性や発達段階などを考慮した個々に応じた支援方法なども考えておかなければならない要素であろう。

知的判断が求められる動作の特徴としては、個々に動作で分類すれば表5のような動作にはなるが、1日の流

れの中の職務としてみると、職務の一つ一つは比較的単純であり、知的面以外が重視される内容でも、一人で複数の職務を行うことが求められており、状況を判断して行う職務や思考力が求められるもの、指示を聞きその内容を理解して一日の仕事の段取りや準備、片付けまでの流れを一人で判断して行っているものなど、認知や記憶、思考、判断等の知的面が必要とされる職務や専門的な知識や技能が求められる職務、パソコンや機械操作が求められる職務など、就労に求められる職務が多様化、高度化していることが窺える。このため、そうした職場への就労を目指すには、その生徒に応じた支援が必須条件となってくる。この裏付けとして「69.7%の生徒が何らかの支援を受けている」の結果が示している(表6)。

具体的には、例えば「伝票を照合する(5)」のような複数の情報から同じ情報を照合する作業は、集中力及び注意力が必要であり、高度な作業であるといえ、実際の伝票や商品には、企業名や商品名が英語で表記されているものも多いため、ローマ字読みができれば英語の表記を「なんとなく」でも読みとれるため、照合作業ができるであろう。

また、数の概念については、「10個の塊を作り、100個までの数でまとめる(10や100の束にする)」などと一定の数でまとめることは必要であろう。その他、パソコン入力作業(2)をしている卒業生もいた。パソコンでのローマ字入力や数字を入れるなどの簡単なエクセルの表のデータ入力などのスキルを身に付けておくと、就労先の幅も広がる可能性がある。作業学習においてこのようなパソコンの入力などに取り組む「情報」に関する内容をさらに取り組んでいくことが必要であろう。また、具体的に見えている課題としては、「敬語で話せること」や、自分の持ち場へ開始時間前に到着し、終了時間までしっかり働くことができているかななどの「時間の逆算ができること」などが考えられる。また、「手順を理解し、厳守すること」や「場面に応じた必要な物の数の割合を考えること」なども知的面に求められる動作であろう。

最後に「就労までの支援」についてまとめる。代表的なものの中に、「支援者を固定(困った時に聞く人を決めておく)」ということが挙げられており、この点は、就労先と事前に誰に固定するか決めておくことが配慮事項の上位の優先事項であると考えられる。授業においては、生徒が困っている時に、教員が先取りして対応するのではなく、生徒自らが援助スキル、確認スキルを身に付けられるように意図的に場面設定をする必要がある。ゆえに、知的障害や自閉症の生徒にとっては最も苦手である知的判断や対人面に関わる動作が求められており、これから

の就労を考える場合、本人に求められる力を付けることと同時に新たに支援方法を検討することも求められているといえよう。

以上、一般就労先の職務から見えてきた具体的な教育内容について述べてきたが、学校教育において最も大切なことは、「身近な働く大人は教員である」ということであり、これは時代が移り変わっても変わることはなく、特に作業学習時においては、「教員自らがその道のプロに徹する」ことは大前提であろう。

また、本調査の中で、サービス業(ビルメンテナンス及び病院サポート業務)に就労している療育手帳 A 判定の卒業生(F)がいたが、F に関しては、希望する就労先の職務の内容について課題分析を行い、その中の F のつまずきに対して、システムティック・インストラクション(以下 S・I)(小川, 2012)による段階を追った指導を行ったことで、職務遂行が可能となり、結果的に一般就労に至り、現在も離職することなく就労できている。この指導に関しては、山崎ら(2018)が「職務分析、課題分析及び S・I を取り入れた現実に即した学習の展開と指導法そのものが、これからの時代に即した 21 世紀型能力の職業教育の在り方である」と提案しており、具体的な実践事例として、高知大学教育学部附属特別支援学校(2019)がまとめている。この事例は、生徒が希望する就労先の職務分析を行い、生徒が職務遂行できるための段階的な指導を行うことで、就労が可能となる具体的な事例であったため、今後、課題分析と S・I はこれからの就労を目指した指導・支援の在り方の一つとなろう。

本調査では、就労に求められる職務が、知的障害や自閉症のある人たちには苦手と言われている、人との関わりや状況に配慮した動き、知的判断が求められる動作が多くなっていることが明らかとなったが、その中で、表 3 で示したように「一般就労率が 29.5%」の数値を支えているのは、職場や教員、関係機関の何らかの支援であることは、表 6 の「何らかの支援を受けている卒業生は 69.7%」という数字からも明らかである。

これからの自立と社会参加を目指した教育、中でも一般就労については、希望する就労先である企業の求める職務の多様化、複雑化、高度化が進み、知的障害や自閉症や発達障害の生徒が苦手としている、知的判断や人との関わり、状況を判断した動作が求められていることが分かった。このことから、これからの学校教育では、そうした動作に関わる内容の学習や就労に向けた支援など、いかに個々に応じた指導、支援を行えるのかが一般就労を目指す鍵となるであろうし、それは、学校教育に求められている現状といえよう。こうした中で、就労率向上

に向けては、学校教育のまとめとも言える、生徒の就労に直接関わっている進路担当や進路に関わる教員、ジョブコーチや就労支援コーディネーター、関係機関等との連携による支援が就労を支えていることも見えてきた。

また、以下に新学習指導要領(2019)の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの視点から本研究の結果を考察する。例えば、「ホテル清掃業務」であれば、「手順や道具の使い方」が「知識及び技能」、「お客様の動きでモップさばきに気を付ける」や「備品を確認し補充する」が思考力、判断力、「リーダーに声をかけて確認を求める」が表現力、「整理整頓の徹底、お客様がいたら避ける」などが「学びに向かう力、人間性等」などと、各動作の中にこの 3 つの要素が盛り込まれているといえよう。ゆえに、本研究で明らかになった各動作は、多様化する現代社会で生きぬく力とされているこの 3 つの各資質・能力をさらに具体化したものであると考える。

5. 今後の課題

本研究では、現代の高知県知的障害特別支援学校卒業生の一般就労先で求められる職務から必要な動作を見だして、それを学校教育にフィードバックさせることを目的に、近年の高知県における知的障害のある生徒の一般就労先の傾向を調査した。その結果、卸売業・小売業、製造業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業などが大きな割合を占めており、現代の高知県の知的障害特別支援学校を卒業した一般就労先の特徴を明らかにすることができた。これは、高知県における「就労傾向」の一端を示すことができたといえよう。今後は、この「就労先で求められる具体的な動作」をさらに細かく分析を進め、本人主体・本人参画型の進路指導のさらなる充実を図りたい。そのためには、生徒が実際に行う仕事の内容を動作として、具体的に伝えるための指導資料の作成や各知的障害特別支援学校の進路指導担当者における職場開拓や職務遂行につながる支援資料として提供できるように、さらに分析をすすめたいと考える。

今回の調査では、現代の高知県の知的障害特別支援学校卒業生の一般就労先の職務に関する動作を明らかにすることができた。しかし、その前段階である就労に至るまでの学校教育における各職務に求められる細かい動作の獲得の指導・支援の方法を S・I を用いて分析はできていない。今回の研究で示した具体的な教育内容を踏まえて今後さらに検討を深めていきたいと考える。

謝辞

高知県内の国公立知的障害特別支援学校の皆様、高知県教育委員会事務局特別支援教育課の皆様にご心より感謝申し上げます。本研究は JSPS 科研費 18K02793 の助成を受けたものである。

文献

- 1) 高知県教育委員会 (1959) : 精薄教育に於けるカリキュラムの研究 (第一報) (高知県における精薄者の適応とその分類).
- 2) 高知県教育委員会 (1968) : 精神薄弱特殊学級教育課程一試案—精神薄弱教育における教育課程の研究 III.
- 3) 是永かな子 (2005) : 高知県の障害児教育における『高知プラン』の意義と課題—関連する 6 つの文献の検討を中心に—, 高知大学教育学部研究報告第 65 号.
- 4) 山崎敏秀・大久保裕也・谷亜由美・宇川浩之・矢野川祥典・大藪安世・西本三智・坂本由布子・寺田信一 (2018) : 知的障害特別支援学校における 21 世紀型の職業教育の在り方とその展開に関する考察, 高知大学教育実践研究, 第 32 号, pp. 147-154.
- 5) 高知大学教育学部附属特別支援学校 (2019) : 次期学習指導要領に向けた実践研究—知的障害教育校におけるこれからの時代に即した教育課程の編成とその展開—自立と社会参加に向けて 高知大学教育学部附属特別支援学校の挑戦, 文部科学省平成 30 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業報告書.
- 6) 高知大学教育学部附属特別支援学校 (2020) : 次期学習指導要領に向けた実践研究—知的障害教育校におけるこれからの時代に即した教育課程の編成とその展開—高知大学教育学部附属特別支援学校方式によるこれからの時代の教育課程の編成と指導方法に関する実践事例集, 文部科学省令和元年度特別支援教育に関する実践研究充実事業報告書.
- 7) 小川浩編著 (2012) : 障害者の雇用・就労をすすめるジョブ・コーチハンドブック, エンパワメント研究所.
- 8) 谷亜由美・是永かな子・山崎敏秀・蒲生啓司 (2020) : 知的障害特別支援学校の接客サービスにおける丁寧さや気配りなどの他者への配慮に関する行動分析に基づく指導効果, 高知大学学校教育研究第 2 号, pp. 157-165.
- 9) 特別支援学校高等部学習指導要領 (2009) : 文部科学省.
- 10) 特別支援学校高等部学習指導要領 (2019) : 文部科学省.
- 11) 高知県教育委員会 (2020) : 技能検定テキスト (清掃・接客サービス) .
- 12) 高知県教育委員会 (2020) : 平成 30 年度、令和元年度、令和 2 年度高知県の特別支援教育資料, 高知県ホームページ.
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/files/2018081400105/sinro.pdf>
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/files/2019092400306/sotugyouseinosinnro.pdf>
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/files/2020102300141/file_202010235112413_1.pdf